

奄美大島から得られた分布北限記録のシロオビブダイ

小枝圭太¹・畑 晴陵²・前川隆則³・本村浩之⁴¹ 94450 屏東縣車城郷後灣村後灣路2號 台湾 国立海洋生物博物館² 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究所³ 〒 894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町 6-16 株式会社前川水産⁴ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

■ はじめに

ブダイ科 Scaridae は 10 属約 80 種が知られ (Bellwood, 1994), そのうち日本近海に 7 属 36 種が分布する (島田, 2013). アオブダイ属 *Scarus* にはシロオビブダイ *S. spinus* (Kner, 1868) をはじめとする 45 種が含まれ, このうち 22 種が日本近海に分布する. シロオビブダイはこれまで日本国内において沖縄諸島以南の琉球列島からのみ記録されていた (島田, 2013).

2015 年 7 月および 12 月に鹿児島県奄美大島大和村沖と笠利町沖においてシロオビブダイの 1 個体が採集された. この標本は鹿児島県における本種の初めての記録となるとともに, 分布北限を更新する記録となるため, ここに報告する.

■ 材料と方法

標本の計測・計数方法は Randall and Earle (1993) にしたがった. 標準体長は体長と表記し, 体各部の計測はデジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位でおこなった. KAUM-I. 86707 の計数・計測値が KAUM-I. 74991 と異なった場合はその値を括弧内に示した. 生鮮時の体色は, 固定前に撮影され

た奄美大島産の標本のカラー写真に基づき記載した. 標本の作製, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 本報告に用いた標本は, 鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている.

■ 結果と考察

Scarus spinus (Kner, 1868)

シロオビブダイ (Fig. 1)

標本 KAUM-I. 74991, 体長 227.2 mm, 雄, 鹿児島県大島郡奄美大島大和村名音漁港沖 (28°20'N, 129°18'E), 2015 年 7 月 21 日, 水深 2-5 m, 追込み網; KAUM-I. 86707, 体長 224.0 mm, 雄, 鹿児島県大島郡奄美大島奄美市笠利町沖 (28°29'N, 129°36'E; 奄美市名瀬漁業協同組合にて購入), 2015 年 12 月 19 日, 前川隆則.

記載 背鰭条数: IX, 10; 臀鰭条数: III, 9; 胸鰭条数 14; 腹鰭条数 I, 5; 尾鰭条数 13; 縦列鱗数 20; 側線有孔鱗数 16 (18) + 4 (2); 側線上方鱗数 2; 側線下方鱗数 6; 背鰭前方鱗数 4; 腹鰭前方鱗 5; 尾柄周囲鱗列数 12.

体各部測定値の体長に対する割合 (%): 体高 41.9 (45.4); 体幅 16.4 (19.6); 頭長 35.2 (37.7); 吻長 16.3 (17.2); 眼径 4.7 (5.0); 両眼間隔 13.4 (14.3); 尾柄高 16.3 (18.0); 背鰭前長 34.8 (38.8); 臀鰭前長 62.5 (63.9); 背鰭基底長 53.7 (56.1); 背鰭第 1 棘長 9.9 (10.1); 背鰭第 9 棘長 10.9 (13.3); 背鰭最長軟条長 13.0 (15.1); 臀鰭基底長 27.6

Koeda, K., H. Hata, T. Maekawa and H. Motomura. 2016. Northernmost records of *Scarus spinus* collected from Amami-oshima island, Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Nature of Kagoshima* 43: 207-210.

✉ KK: the Kagoshima University Museum, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan (e-mail: hatampo@gmail.com).

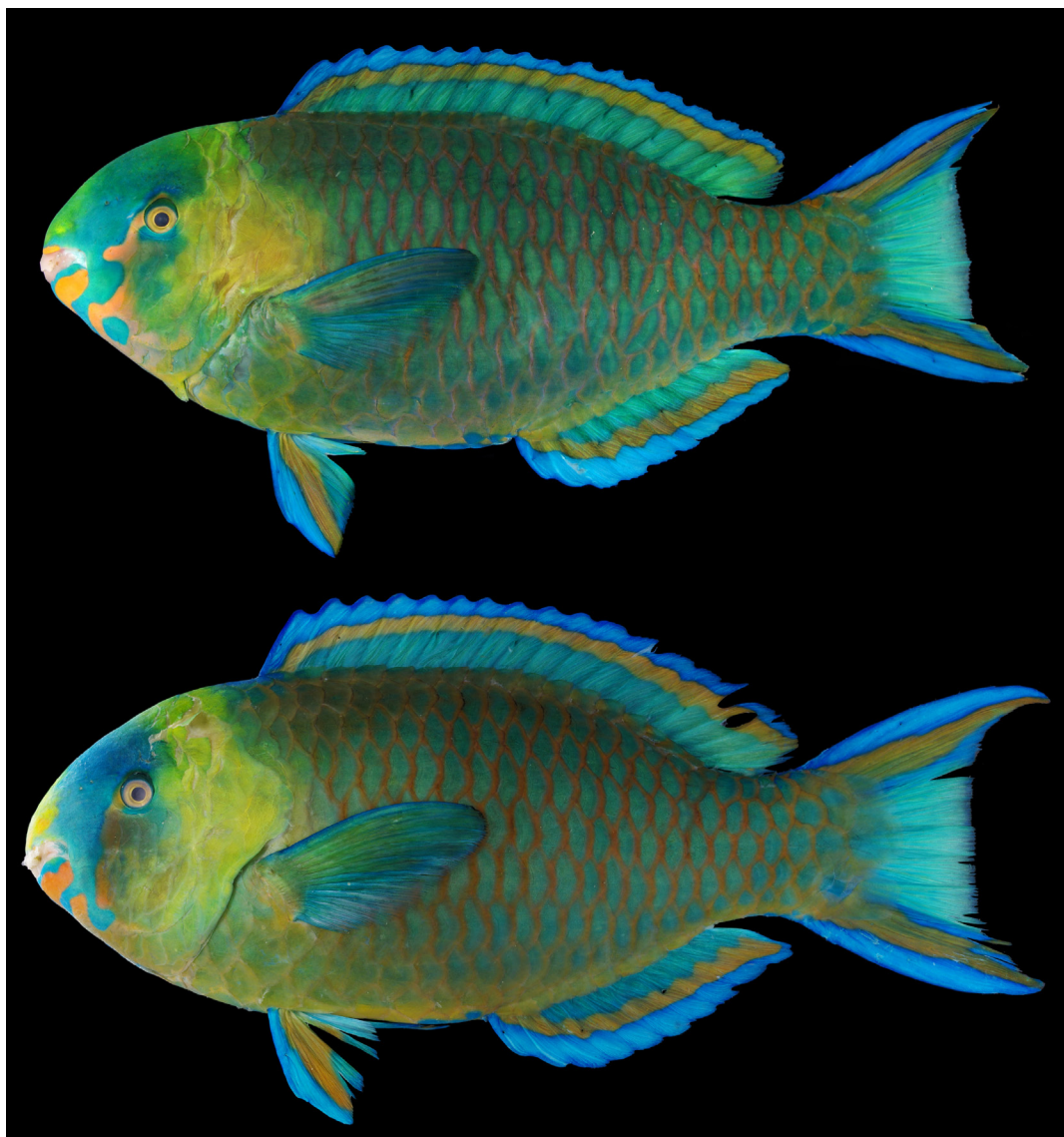


Fig. 1. Fresh specimens of *Scarus spinus* collected from Amami-oshima island, Kagoshima Prefecture, Japan. Upper: KAUM-I. 74991, 227.2 mm standard length (SL); lower: KAUM-I. 86707, 224.0 mm SL.

(29.2); 臀鰭第3棘長 9.6 (9.4); 臀鰭最長軟条長 12.2 (15.6); 胸鰭長 25.8 (29.6); 腹鰭棘長 12.7 (15.3); 腹鰭長 19.1 (22.1).

体はやや細長い楕円形で側扁する。頭部背縁は吻端から背鰭起部までゆるやかに膨らむ。背鰭起部から背鰭第9軟条基部までの背縁は体軸に並行で直線的で、その後方では尾柄までゆるやかに下降する。頭部および体の腹縁は吻端から尾柄に

かけてゆるやかに湾曲する。吻は丸い。眼は体の中心線よりやや高い。眼は小さく、頭長の12.3–14.3%。眼隔域はよく膨出する。口は下位で小さい。上顎が下顎よりわずかに突出し、下顎歯板が上顎歯板の内側におさまる。上顎後端は前鼻孔前縁よりも前方。両顎歯板の外側はなめらかで、上顎歯板の約1/2が唇に被われる。鼻孔は2対。前鼻孔は正円形で、後鼻孔は背腹方向に長い裂孔状

(角の丸い三角形)。後鼻孔は前鼻孔より小さい。

頭部と体は眼の周囲から吻部、下頰部および各鰭を除き大きい円鱗で覆われる。上頰部の鱗は3列で、眼下に広い無鱗域をもつ。間鰓蓋骨上の鱗は1列。体の鱗は背鰭、臀鰭、尾鰭基部を除きほぼ同大で、胸部の鱗がやや大きい。背鰭および臀鰭基底の鱗は体側の鱗の半分程度。

側線は2部に分かれる。前部の側線は鰓孔上端から始まり、ほぼ直線的にわずかに下降して走り、背鰭基底後端のすぐ下のやや前方で終わる。後部の側線は背鰭基底後端直下の体側中央から始まり、体軸に沿って尾柄中央を通り、尾鰭基底の前で終わる。

背鰭起部は胸鰭基底上端および腹鰭起部の直上。背鰭基底は長く、体長の1/2以上。背鰭は棘と軟条の長さに大きな差がなく、第8軟条が僅差で最長。背鰭の棘と軟条間の鰭膜はわずかに欠刻する。臀鰭起部は背鰭第1軟条基部の直下。臀鰭は背鰭とほぼ同じ高さ。臀鰭の棘と軟条の長さに大きな差がなく、第8軟条が僅差で最長。胸鰭後端はやや尖り、第2軟条が最長で、それより下方の軟条は徐々に短くなる。腹鰭はやや尖り、たまたんだ腹鰭の後端は臀鰭起部および肛門に達しない。尾鰭は截形で上下葉の後端がやや伸長して尖る。

鮮時の色彩 体は鮮やかな緑色で、腹部から胸部がやや黄色がかかる。腹部正中線上は青い。体側の鱗は露出部の縁辺が褐色を呈するため、体側が網目状の褐色模様となる。頭部は全体に青緑色で、眼と主鰓蓋骨後端の間が黄色、眼上域から吻部にかけて鮮青緑色を呈する。眼の前縁から頭部腹縁、下顎部、上唇に橙色の虫食い模様がある。虹彩は内側が黄色く、外側は緑色。眼の周囲に緑色横帯がない。背鰭は外側1/4が青色、基底側1/2が青緑色、その間が黄色。臀鰭は外側1/3が青色、基底側1/3が青緑色、その間1/3が黄色。胸鰭は青色の半透明。腹鰭は前部1/3が青色、後部1/3が青緑色、その間1/3が黄色。全体が淡黄色で、前縁が淡藤色。尾鰭は両葉の外縁が青色で、尾鰭基底から上下葉先端まで黄色帯がはしり、中央部は青緑色。

分布 シロオビブダイは西太平洋のオーストラリア北西岸、サモア諸島、マーシャル諸島、カロリン諸島、インドネシア、パラオ、東沙諸島、台湾の北部と澎湖諸島、日本からの記録がある(Myers, 1991; 岸本, 1997; Wang, 2011; Allen and Erdmann, 2012; 島田, 2013)。また、日本国内では奄美大島および沖縄諸島以南の琉球列島(伊江島、沖縄島、宮古島、八重山諸島)からのみ記録されている(Senou et al., 2006, 2007; 益田・小林, 1994; 三浦, 2012; 島田, 2013; 本研究)。

備考 奄美大島から得られた2標本は吻が丸い、頭部の輪郭が丸い、後鼻孔が小さい、頰部鱗列数が3で鱗が大きい、歯板が唇で被われる、下顎歯板が上顎歯板の内側におさまる、胸鰭軟条数が14、および背鰭前方鱗が4などの特徴によりBellwood (1994, 2001)によって定義された*Scarus*属と同定された。また、頭部輪郭が著しく丸い、口は下位、眼と主鰓蓋骨後端の間が黄色、頭部腹側に橙色の虫食い模様がある、眼の周囲に緑色横帯がないことなどの特徴が益田ほか(1975)やBellwood (2001)、島田(2013)の示した*S. spinus*の標徴と一致したため、本種と同定された。

これまでシロオビブダイは、日本国内において伊江島、沖縄島、宮古島、八重山諸島など琉球列島の沖縄諸島以南からのみ記録されていた(Senou et al., 2006; 益田・小林, 1994; 三浦, 2012; 島田, 2013)。したがって、本報告の鹿児島県奄美大島から得られた標本は、本種の鹿児島県ならびに薩南群島からの初めての記録となるとともに、奄美大島から得られた標本は、本種の分布の北限を更新する記録である。第1著者は本種を琉球列島北部に位置する口永良部島やトカラ列島口之島において目視確認しており、本種が琉球列島に広く分布している可能性が考えられる。今後、これらの海域において、本種標本の収集が期待される。

■ 謝辞

本報告を取りまとめるにあたり、標本の作成・登録作業などを手伝ってくださった鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同博物館魚

類分類学研究室の皆さまに厚く御礼を申し上げます。本研究は、鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は JSPS 研究奨励費 (PD: 26-477; DC2: 29-6652), 第 2 著者への笹川科学研究助成金 (28-745), 第 4 著者への JSPS 科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS アジア研究教育拠点事業—アジア・アフリカ学術基盤形成型—「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性プロジェクト) 学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

■ 引用文献

- Allen, G. R. and Erdmann, M. V. 2012. Reef fishes of the East Indies. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth. xiii + 1292 pp.
- Bellwood, D. R. 1994. A phylogenetic study of the parrotfishes family Scaridae (Pisces: Labroidae), with a revision of genera. Records of the Australian Museum, Supplement, 20: 1–86.
- Bellwood, D. R. 2001. Scaridae. Pp. 3468–3492 in Carpenter, K. E. and Niem, V. H., eds. FAO species identification guide for fisheries purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 6. FAO, Rome.
- 加藤晶一. 2016. ネイチャーウォッチングガイドブック ベラ & ブダイ 日本で見られる 192 種 + 幼魚、成魚、雌雄、婚姻色のバリエーション. 誠文堂新光社, 東京. 319 pp.
- 岸本浩和. 1997. シロオビブダイ. Pp. 524–525. 岡村 収・尼岡邦夫 (編). 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.
- 益田 一・小林安雅. 1994. 日本産魚類生態大図鑑. 東海大学出版会, 東京. 465 pp.
- 益田 一・荒賀忠一・吉野哲夫. 1975. 魚類図鑑 南日本の沿岸魚. 東海大学出版会, 東京. 379 pp.
- 三浦信男. 2012. 美ら海市場図鑑 知念市場の魚たち. ウェーブ企画, 与那原. 140 pp.
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Myers, R. F. 1991. Micronesian Reef Fishes: A Practical Guide to the Identification of the Coral Reef Fishes of the Tropical Central and Western Pacific. Second Edition. Coral Graphics, Guam. vi + 298 pp.
- Randall, J. E. and Earle, J. L. 1993. *Scarus obishime*, a new parrotfish (Perciformes: Scaridae) from the Ogasawara Islands. Japanese Journal of Ichthyology, 39 (4): 287–293.
- Senou, H., Kobayashi, Y. and Kobayashi, N. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), 36: 47–74.
- Senou, H., Kodato, H., Nomura, T. and Yunokawa, K. 2006. Coastal fishes of Ie-jima island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science), 35: 67–92.
- 島田和彦. 2013. ブダイ科. Pp. 1137–1151, 2056–2059. 中坊徹次 (編). 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. 東海大学出版会, 秦野.